

紫朋

SHIHOU

Vol.45 平成12年4月

発行
横浜市立金沢高等学校
同窓会「紫朋会」

会長挨拶



第十四期卒
(昭和四十一年卒)
佐藤 邦彦

紫朋会々員各位におかれましては、益々ご健勝にご活躍の事とお慶び申し上げます。日頃は、当会に対し、ご支援、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は一九〇〇年代最期の年を過ぎたわけでありますが、国内の政治、経済とも混迷を続けており、世界のそこかしこでの紛争、政変も新聞の紙面を賑わしています。しかし、必ずしも暗いニュースばかりではなく、スポーツ界では「ニューヨーク」が生まれ、二〇〇〇年に開催されるシドニーオリンピックへの出場切符も着々と重ねております。

一方、高齢化社会はじわじわと押し寄せ、あわせて少子化傾向に拍車がかかり、生産人口の減少、それに伴う税収の落ち込みと、すでに将来の経済危機のブローグとも思える状況となっております。同様に、高校教育も改革を迫られ、統廃合が公表されてもいます。我が金沢高校も平成十三年(二〇〇一年)で創立五〇周年を迎える事となりました。一八、〇〇〇人を数える会員各位、また、ご指導いただいた教職員の方々のおかげで、しっかりと地元を根ざすことができました。更なる発展と、地域に寄与できる学校として進み

たいものです。

半世紀の歴史を刻んで来たわけですが、昨年より「創立五〇周年記念行事」を学校サイドに主体的に進めていただき、準備を種々進めております。組織作りからスタートして、まず、本会「紫朋会」内に、「企画委員会」体制を整備して学校サイドとの情報交換(連絡協議会)、他の団体(PTA、後援会、むつみ会等)との連携につき対応しております。そして、今年度は会員各位からの寄付および記念行事運営に関するご協力をお願いしたいと考えております。

準備・運営には多数の方々のご協力が不可欠ですので、自薦・他薦問わず、お申し出頂ければ幸いです。

最後に、各方面でご活躍されている卒業生の皆様、また教職員の方々のますますのご健康、ご発展を祈念し、金沢高校現役諸君の活躍に期待し、尚一層の本会へのご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

学校長挨拶



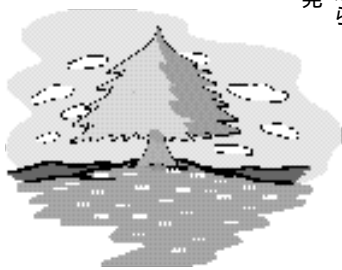
学校長
常木 己喜雄

も静かな校門に始まって、施設はいずれも年輪がかさんで見えます。しかしながら一歩踏み込めば、ゆったりと緑豊かに、奥行き

は市大と東急車両に悠然と割って入るたまたまい。内実も、これに似た学校なのでしようか。派手さはないものの、「自主自立」という素晴らしいと敬しななかで、前途有為の若者を大切に育て続けてきた実績、卒業生諸氏の各分野での活躍が、そのことを如実に物語っております。間もなく迎える創立五〇周年には積み重ねを総括して、「金高」に存分の光りをあてていけるべき時期にあるものと思えます。この機に、神奈川県横浜に「金高」ありきと、胸を張って自己表現したい。歴史を振り返り明日への夢を語らう、二十一世紀への更なる飛躍を望みながら、五〇周年を盛大に祝おうではありませんか。

申し遅れましたが、平成十一年四月に横浜商業高校より異動いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。赴任してからこれまで、学校規模縮小にかかわる諸課題をはじめ山積する課題に追われどおしの日々です。凡庸なる私、ごときが激動のなかでここまでこられましたのも、「金高」のさまざまな歴史に支えられてきたからだと思います。関係各位に心より感謝申し上げます。

それにしても、教育界はご案内のとおり今や激動の時期です。何を残してさらに磨きをかけ、時代の変化に対応して何を変革していくのか、それらの判断と実行を迫られる日々です。決断していく視点は、生徒たちの「豊かにたくましく育つ場」の確保と肝に銘じております。紫朋会の皆様方とよりいっそう連携を密にしなから、「金高」の充実発展に意を尽くしてまいりたいと思っております。



平成十二年度

紫朋会総会のお知らせ

日時 平成十二年五月二十八日(日)
会場 横浜市立金沢高校

第一部 午後一時から

講演会 視聴覚教室(階段教室)

演題 「鳥の渡りと地球環境の保全」

講師 樋口 広芳氏(十四期生)

第二部 午後二時から

総会 視聴覚教室(階段教室)

議題 平成十一年度 事業報告

平成十一年度 決算報告

平成十二年度 事業計画

平成十二年度 予算案

創立五〇周年

記念事業について

その他

第三部 午後三時から

懇親会 食堂

会費 二、〇〇〇円

(平成十二年三月卒業生は無料)

《講師樋口 広芳氏について》

金沢高校十四期(昭和四十一年)卒業

8組 田原級

横浜生まれ、高校卒業後、宇都宮大学から東京大学大学院博士課程修了後

農学博士、東京大学農学部助手、米田

ミシガン大学研究員、日本野鳥の会

研究センター長を経て、現在は東京大学

学教授として勤務されています。

著書も多数あり、一九七七年、日本

野鳥学会「鳥学研究賞」受賞、一九九

一年、国立公園協会「田村賞」受賞、

一九九八年、山階鳥類研究所「山階

芳磨賞」受賞の栄誉に輝いています。

特に最近では、「カラスの生態」に関

して、行動のパターンなどをテレビ等

でも解説されています。

平成一十一年度 事業活動報告

常任幹事会

常任幹事会は、各期各クラスの卒業生の代表・常任幹事で構成されており、紫朋会の総会で決定・承認された各種行事の運営計画を検討・実施する機関です。

平成十一年度の常任幹事会は以下の通り開催しましたのでご報告します。

【第一回】

四月十日(土) 於・金高会議室
議題 学校側新任顧問紹介
十年度決算報告・承認
十一年度予算案・承認
十一年度事業計画・再確認

会報「紫朋」44号進行状況報告・校正
紫朋会運営改革案・協議
五〇周年事業への学校側取組状況・報告
会計部長・選任
新入幹事紹介
*幹事会終了後、新入幹事の歓迎会を実施

【第二回】

九月四日(土) 於・金高会議室
議題 寄付状況中間報告・承認
会計状況中間報告・承認

五〇周年記念行事学校側取組状況・報告
十一年度紫朋会総会報告・承認
十一年度金高祭参加について・協議
会報「紫朋」45号企画・協議
各種行事実施/予定状況・検討・確認

【第三回】

十二月十一日(土) 於・金高会議室
議題 会報「紫朋」45号進行状況・報告
五〇周年事業について・報告

・紫朋会取組状況報告
・五〇周年連絡協議会参加報告
記念行事実行委員会の編成・協議
*幹事会終了後、忘年会を実施

【第四回】

一月二十九日(土) 於・金高会議室
議題 五〇周年事業への
学校側取組状況・報告

会報「紫朋」45号進行状況・報告
十一年度決算収支状況・中間報告
十一年度事業計画案・承認
会報「紫朋」五〇周年記念号・協議
記念事業実行委員人選・協議

前述の通り、常任幹事会は紫朋会の運営には不可欠な重要な活動です。今年度の幹事会の開催予定は別掲の通りです。金高の創立五〇周年事業の準備も実行委員会が設置されて本格化しますので、クラス代表が否かにかかわらず、会員の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

平成十一年度総会

平成十一年度の紫朋会総会は五月三〇日午後一時より金沢高校の視聴覚室で、出席者四十二名のもとで開催されました。

第一部は二十四期卒で、ダイビングスクール&ショップ「TAG」を経営する田口周一氏の講演。氏は三宅島周辺でのイルカの撮影を通して、自然との共生や地球環境を考えることを貴重な映像をまじえて楽しく語ってくれました。

第二部は、常木新校長のご挨拶の後、昨年度の事業・決算報告、十一年度の事業計画・予算案の承認の他役員改選がありました。

新役員は以下のとおりです。()内は期
会長 佐藤邦彦(14)
副会長 高梨 修(12) 松原尊臣(16)
会計 御園昌人(24)
会計 斎藤マツ子(6) 奥田美佐子(6)
会計監査 金子芙美子(14) 薄合みち子(16)
佐藤伴子(16)

議事のと会場を食堂に移して、第三部の懇親会が和気あいあいのうちに終わりました。

パソコン教室

今年度は、第一回七月十八日「基本操作・インターネット入門」、第二回九月十九日「文書処理・表計算入門」、第三回十一月二十一日「文書処理・表計算入門」の三回を実施しました。

ハイキングの会

この会もはじめてから五年、延べ十回のハイキングを行ない、定着してきました。

第九回は六月十二日(土)に箱根金時山に登りました。総会日程の都合で、いつも天気気がなる六月第二週になりましたが、今年は快晴ではないが天気に恵まれました。参加者は十二名と少人数ながら、停年になって時間ができたという人や、二〇期代の若い(?)人などはじめての人も加え元気よく歩きました。帰りは湯本で途中下車、千尺の湯でさっぱりしたあと、そば屋の二階で反省会を開いて解散しました。

第十回は十一月十四日(日)、高尾山から相模湖へのコースでした。御主人やパドミンの仲間など紫朋会員でない人も加わり総勢二十四名が参加しました。全体的には紅葉は遅れ気味ながら、いろはもみじは真っ赤に色づき、さすがと思えました。城山から急坂を相模湖へ下り、今降りてきた城山をはるかに見上げたとき、じわっと充足感が湧いてきました。

四十二期のMさんが参加され、中高年のハイキングの会に新風を吹きこんでくれたことも報告しておきます。



社会見学ツアー

本年度は、七月三十一日(土)の実施を予定していましたが、参加希望者が定員に達しませんでしたので、やむなく中止とさせていただきます。

紫朋会「釣り大会」

昨年の九月十一日(土)、紫朋会行事としては二回目の「釣り大会」を金沢八景・平潟湾の弁天屋さんで開催すべく準備し、参加者の募集を行いました。スケジュールの都合により参加中止の申込者が多くなつたため、やむなく中止いたしました。

なお、今年度も別掲の通り開催する予定です。ぜひご参加下さい。初心者大歓迎です。

金高祭

例年開いている同窓会の部屋を今年も「営業」しました。定番の卒業アルバム展示とドリンクならびにクッキーの無料サービスそして卒業生十五期の田川正子さんのハワイアン演奏をお願いし歌と踊りに魅了されました。皆様の中で卒業生で金高祭への参加を提案できる方がいらっしやいましたら「一報ください」。

リース教室

毎年、好評を博しておりますリース教室。今年度は十二月五日、金高会議室にて十二名が参加して実施されました。昨年実施の折、「来年はクリスマスリースもいけれど、正月用のリースを作ってみよう」との声があり、先生にお願いして、金高祭のときにサンプルを用意していただき、正月用とクリスマス用の希望を取っていただきましたが、結局、双方入り混じったの実施となりました。自分の希望がかなって、参加された方は一応に満足されていましたが、先生にはご迷惑をかけたしまいました。改めて御礼申し上げます。



学校便り

先生方の異動

昨年三月をもって校長の高見澤隆先生、数学科の相川勲先生が退職された他、副校長の手老貞行先生が僅か一年で教育委員会指導課に転任されたのはじめ六名の先生が次の通り転任されました。

氏名 (教科) 着任年 転任先
 高村 和利 (美術) 昭和47年 南高校
 横山 浩 (国語) 昭和58年 桜丘高校
 柿野谷 仁 (数学) 昭和60年 港商業高校
 太田 光洋 (国語) 昭和60年 港商業高校
 栗原 秀平 (地学) 昭和61年 横浜工業高校

代わって昨年四月本校にお迎えした先生をご紹介いたします。

校長の高見澤隆先生の後任として横浜商業高校から常木己喜雄先生を、副校長の手老貞行先生の後任として南高校より白石通成先生をお迎えいたしました。

常木先生は、現在市立立高校校長会の副会長として、また神奈川県立立高校野球連盟の会長としても活躍です。

白石先生は、昭和四十四年から五十六年まで本校の物理の教員として勤務された経歴があり、昨年十八年ぶりに本校に戻られました。その他着任された先生方は次の通りです。

氏名 (教科) 前任校
 新倉 千秋 (国語) 南高校
 坂本 伸江 (国語) 港商業高校
 森田 浩子 (数学) 桜丘高校
 山本 弘子 (数学) 戸塚高校
 遠藤 摩希 (地学) 南高校
 川和田秀明 (美術) 東高校

また、今年の三月で社会科の野田先生、養

護教諭の山田先生が御勇退されました。野田先生は、昭和四十年に本校に赴任され以来三十五間に渡り、地理の授業は勿論生徒会活動や部・同好会の活動など精力的な指導をいただきました。

山田先生は、昭和四十五年に赴任され三十年間、生徒の健康を守ってこられました。最近には精神面のケアも重要な仕事となり、多くの生徒が救われたのではないかと思います。お二人の先生には、ご挨拶文をお願いしましたのでお読み下さい。

入テキな金高でした!

社会科 野田 康之
 昭和四十年、日吉台中学から金沢高校に赴任して以来、自然が豊かで広大な敷地と自由な校風の中で、三十五年間、すばらしい人生を過ごさせていただきました。

思えば南高校に在学中(私は南高の三期生です)、地理の授業や生徒会活動・部活動を通して、高校の地理の先生になろうという意識が芽生え、それが金沢高校に赴任したことにより達成されたわけです。

生徒の立場や視点にたつて先生しようと思つてきたのですが、いつのまにか先生になつて生徒を忘れることもしばしばでした。若いころはずいぶん勝手だったように思います。自分の主張を押しついたり、生徒の意見を聞いているつもりで、自分で一方的に喋つていたように思います。

私は昭和四十一年三月の卒業生から知つていることになりました。この間、創立以来勤務されている何人もの先生と学校生活を共にいたしました。金高で定年を迎えられた多くの先生、最近では配置換えで他校へ転勤された二十年以上も一緒に活動した先生方から多くを学びました。いま、金沢高校で活動の中心でいられる先生方、配置換えで新しく金高にお見えになった先生方とは新鮮でエネルギーが豊富な出会いがありました。

多くの教職員の方々や生徒達との出会いは私の生活を豊かに、意義あるものにしてくれました。

ました。山歩き・鉄道の旅・食と秘湯巡りの旅・合唱・クラシックやオペラの鑑賞・園芸とお花・陶芸・切手収集等の趣味は、そのような環境の中で生まれ育つてきました。

たくさんのお迷惑をおかけ致しましたが、みなさまの支えによって今の私があります。在職中はいろいろとお世話になりました。ありがとうございました。感謝の気持ちで金高を後にでき、幸せを感じています。

退職にあたって

山田 古子

高校時代をご殿付きの木造校舎で学んだせいもあって、着任時の木造校舎は、母校に帰つたような懐かしさでした。当時保健室は、南校舎の技術員室と食物室に挟まれた一教室半の広さでした。前の先生がご病気で長期に渡りお休みされていた事もあり、着任と共に、健康診断終了後も暗くなるまで整理や計画に追われていました。そんな折、一人の男子生徒が一輪車を借りて、廃棄用品を焼却炉まで運び手伝つてくれたこと等、昨日のように思い出されます。

当時は、保健室の活動も生徒達に支えられた事が多く、健康診断の記録、連絡係、検便の回収、体育祭・スポーツ大会の救護と実に良く活動をしてくれ、学校保険委員会に於いても生徒の立場から積極的に発言してくれました。又先生方も、生徒の自主性を重んじながら良く指導してくれ、私自身の成長の糧となりました。

校舎・校庭も年々整備され、校庭は四季の移ろいの変化を楽しめるような豊かな自然環境になり、経済的にも恵まれた時代の中で、生徒達が自由に視聴覚の器具を駆使し、音楽祭・金高祭と、情熱をたぎらせ活動する行事に、「私のクラスの歌はどうだった。ダンスの振り付けは?」などと意見を求められ、一緒にわいわい話し合ったことも良い思い出です。

また来訪者からは、「金高の生徒さんは、品が良いですね」と言われる恵まれた雰囲気

気のまなびや頂けたことを感謝いたします。最後に、金沢高校と紫朋会のご発展と皆様のご健康を祈念いたします。

ご挨拶

副校長 白石 通成

思いもよらず十八年振りに再び本校で勤務することになりました。

校門をくぐると、満開の桜と色とりどりのチューリップの花が迎えてくれました。学校全体が多くの緑に囲まれ、沢山の野鳥が訪れるという恵まれた自然の環境はそのまま残っていました。石油倉庫の隣に岩盤に突き当たりにながらも苦勞して埋めた一メートルの地中温度計や雨量計そして百葉箱を設置して二十期・二十一期生の地学同好会の皆さんと露場を作ったことを昨日のように思い出します。

六月の音楽祭に熱狂する生徒諸君に若者の強大なエネルギーを感じ、図書館や自習室(当時はありませんでした)で朝早くから勉強している生徒諸君をみて、「自学・自習」という本校の伝統が守り継がれていることをあらためて認識しました。

本校は来年創立五〇周年を迎えます。これまで進めてきました準備委員会は、全職員による実行委員会に発展し、いよいよ本格的な準備に入りました。記念事業として、音楽を重視した生徒諸君を中心に、「みなとみらいホール」でオーケストラとの共演による第九を合唱します。

佐藤会長をはじめとして紫朋会の皆様には物心ともに多大な御力添えをいただくことになり、とくに、祝賀会につきましては全面的なご支援をいただきたく感じました。感謝申し上げます。ともにどうかよろしくお願ひ申し上げます。



現役生の活躍

運動部

弓道部

県民大会兼国体予選会

女子個人 六位 大川ひろ子(三年)

県春季大会兼関東大会県予選会

男子個人 九位 高橋 明賢(二年)

関東大会出場

県新人戦

男子団体 六位

男子個人 五位 紅林 優作(一年)

バントトワリング部

県大会 二位 関東大会 銀賞

男子バドミントン部

関東大会県予選会 ベスト8

県高校総体ベスト8 県新人大会ベスト8

陸上部

県新人大会

女子400MH 六位 沼田 千織(二年)

横浜市高校陸上競技大会

男子400MH 優勝 高橋 邦吉

女子バスケット部 県新人大会 ベスト16

男子バレーボール部 県高校総体 ベスト16

野球部 春季県大会 ベスト32

文化部

NHK全国高校コンテスト県大会

朗読部門 三位 畑 紀英(三年)

全国大会出場(三年連続)

第二回高校生新聞社賞受賞 畑 紀英

吹奏楽部

安藤為次記念賞高校生自主活動の部 奨励賞

関東教員弓道大会優勝 上田 道寛 先生

朗読との出会い

三年三組 畑 紀英

私は高校生活で三度全国大会を経験しました。それはNHK全国高校放送コンテストという、所謂放送の甲子園のようなもので、ドラマ、番組、アナウンス等様々な部門で全国大会が開催されます。私は朗読部門の県代表

として出場し、多くの人と出会いました。

ただ声が大きいくらいで合唱をやってきた私が放送部に入ったのは、音符なしで大声が出たいという理由でしたが声をだして読むことと自体が楽しく、先輩やOBの方の指導もあり、一年、二年と全国大会に出場しました。しかし、やはり全国二年間とも全く評価されませんでした。そんなこんなで最後のチャンスをめぐって来ました。もう三年目ともなると県大会での強豪は顔見知りとなり、チームで全国をめざす雰囲気がありました。毎年、県代表の強化練習を指導して下さるNHKアナウンサーの方も、大会出身のアナウンサーやDJの方も三年間とおして私の朗読を聞き、前年度と比べて評価して下さったのでかなり力になりました。個人競技とはいえ、様々な人と出会い、励まされ、刺激されながら挑んだ最後の全国大会ではとうとう入賞できた上、三年間共にかんばった仲間一人は全国三位となり、やっと努力が形になりました。

長年のつきあいではなくても同じ目標を共有した友や指導をくださった方には大いに影響をうけました。朗読との出会いは偶然でしたが、主観的な表現におちいりやすい朗読の世界に出会い、朗読へだけでなく自分への客観的な目というものを養うことが出来ました。そういう意味で私にとって全国大会は自分自身との出会いの場だったのです。そして今はそんな出会いのきっかけを作った下さった先輩や顧問の先生、応援してくれた両親や親せき、紫朋会みなさんに感謝しています。これからも貴重な経験がたくさんできるよう、何事にも挑戦していきたいと思えます。

図書館より

紫朋会より毎年図書購入のためにご援助を戴き有り難うございます。お陰様で生徒にとって充実した本を揃えることができました。なお、平成十一年度は以下の図書を購入させていただきましたのでご報告いたします。
・地雷廃絶と除去・倫理思想事典・船の歴史事典

- ・世界の神話百科・古代エジプトの世界
- ・環境問題資料事典(全三巻)
- ・世界絶滅危機動物図鑑(全六巻)
- ・レディーバードのデイズ(全二十一巻)
- ・英語で読む世界の名著(全三十四巻)
- ・100年前の横浜、神奈川・藤沢(全十三巻)

金沢高校創立五〇周年記念行事のお知らせ

金沢高校創立五〇周年準備委員会 野田 康之
金沢高校は昭和二十六年四月に創立し、平成十三年には創立五〇周年を迎えることとなりました。そのため、本校では創立五〇周年準備委員会を中心に、記念行事等の検討を平成十年三月より二年間行ってきました。この間、紫朋会・PTA・後援会等と意見交換を続けながら、共通理解を深めてまいりました。特に紫朋会の常任幹事会では、毎回創立五〇周年記念行事について学校の取組状況を説明させていただき、ご協議いただきました。また、紫朋会が多様な援助をしてくださるとのことで、学校・PTAとも感謝致しております。

創立五〇周年準備委員会は、三月末までに記念誌の概要と予算を決定して、業務を創立五〇周年実行委員会に引き継ぐことになっていきます。以下に、創立五〇周年記念行事の概要をお知らせいたします。

創立五〇周年記念行事の概要

- 記念式典・記念演奏会
時 平成十三年十二月八日(土)午後
- 所 横浜みなとみらい大ホール
- 内容 式典、オーケストラ演奏、オーケストラと合唱・声楽・ピアノ等の共演
- と合唱・声楽・ピアノ等の共演
- 創立五〇周年記念誌の発行
- 金沢高校校歌の編曲(混声四部合唱・ブラスバンド演奏用・オーケストラ演奏用)
- 記念品は校歌のCDを作成(混声四部合唱演奏・オーケストラ演奏)
- 祝賀会を記念式典・記念演奏会に引き続いて、会場付近の他の場所で行う(紫朋会・PTAが中心になって実施予定)。

同年九月末に予定される「金高祭」に予算を配分し、「金高祭」を冠した行事とする。
記念演奏会で演奏する合唱については、オーケストラと共演する合唱曲はベートーヴェン作曲交響曲第九番「歓喜の歌」を中心とする(その他校歌等)。
合唱は「生徒の合唱」と「一般の合唱」による合同演奏。
「一般の合唱団」への参加呼びかけは、卒業生・PTA・教職員(現・旧)・金沢高校PTA混声合唱団。
*指導は本校音楽科の床井先生、PTA混声合唱団指揮者の飯塚先生をはじめ音楽家による指導を検討中。

一般の合唱団員を募集します
卒業生の皆さん参加してください
合唱曲 「第九・歓喜の歌」他
練習日程 平成十三年一月から十二月までの第一・第三土曜日を基本とする。練習時間帯は午後三時以降を検討中。
(予定日) 1月20日 2月3・17日 3月3・17日 4月7・21日 5月19日 6月16・30日 7月7・21日 9月1・29日 10月6・20日 11月3・17・24日 12月1日

練習場所 本校音楽室・食堂・視聴覚室等
合唱参加費(音楽家の指導費)
社会人 八千円 学生 四千円の予定
(紫朋会会員は紫朋会が一部負担を検討中)
参加の申込み
葉書に次の事を記入して平成十二年七月十五日(土)までに金沢高校・音楽科床井のりこ先生宛に申し込んでください。
氏名(ふりがな) 期(または卒業年)
郵便番号・住所 自宅電話(電話連絡先)
希望パート(ソプラノ・アルト・テノール・バス・わかない) 練習時間帯の希望等を書いてください。
*初めてのの方も大歓迎です。
*詳細は合唱団参加希望者に、本年十一月頃に連絡します。今、すぐ葉書を出そう!

卒業生の皆さん参加してください
合唱曲 「第九・歓喜の歌」他
練習日程 平成十三年一月から十二月までの第一・第三土曜日を基本とする。練習時間帯は午後三時以降を検討中。
(予定日) 1月20日 2月3・17日 3月3・17日 4月7・21日 5月19日 6月16・30日 7月7・21日 9月1・29日 10月6・20日 11月3・17・24日 12月1日
練習場所 本校音楽室・食堂・視聴覚室等
合唱参加費(音楽家の指導費)
社会人 八千円 学生 四千円の予定
(紫朋会会員は紫朋会が一部負担を検討中)
参加の申込み
葉書に次の事を記入して平成十二年七月十五日(土)までに金沢高校・音楽科床井のりこ先生宛に申し込んでください。
氏名(ふりがな) 期(または卒業年)
郵便番号・住所 自宅電話(電話連絡先)
希望パート(ソプラノ・アルト・テノール・バス・わかない) 練習時間帯の希望等を書いてください。
*初めてのの方も大歓迎です。
*詳細は合唱団参加希望者に、本年十一月頃に連絡します。今、すぐ葉書を出そう!

会員便り

『鳥の渡りと地球環境の保全』



樋口 広芳
(十四期)

1. 鳥の渡り

鳥の中には毎年、繁殖地と越冬地の間を数百キロ、数千キロ、あるいは一万キロ以上も移動するものがある。こうした長距離の季節的往復移動を渡りという。ある地域に春渡来して繁殖していく鳥を夏鳥、冬渡来して越冬していく鳥を冬鳥、一年中すんでいる鳥を留鳥という。

鳥に足環などの標識をつけて、渡りの経路を調べることを標識調査という。この標識調査は世界中で広く行なわれており、日本でも年間十数万羽の鳥に足環などの標識がつけられている。足環は金属製で、個体番号や拾得時の送付先などが刻印されている。

しかし、標識をつけられた鳥が再び捕獲されたり、観察されたりする機会は非常に少ない。調査が可能な場所や、調査にたずさわった人の数が限られているからである。したがって、鳥たちがどこからどこへ、どういった経路で渡っているのかは、ほとんどの例でよくわかっていない。

2. 人工衛星を利用した渡りの追跡

一九八〇年代の後半から、鳥に送信機をつけ、そこから出される電波を人工衛星でとらえることによって、渡りを追跡することが可

能になってきた。この方法によれば、何百キロ、何千キロを渡る鳥の移動も、時間を追って連続的に明らかにすることが出来る。

この衛星追跡に利用される人工衛星は、アメリカ合衆国の気象衛星、ノア(NOA)である。ノアは地上八三〇キロの極軌道を約一〇〇分に一回の速度でまわる。ノアが受信したデータは、合衆国やフランスにある地上受信局に送られ、そこから情報処理センターに転送されたのち、緯度と経度の位置が割り出される。研究者はこれらの情報を、コンピュータ通信などによって入手する。

3. ツルの渡りの追跡

ツル類は湿原にすむ大型鳥類で、その美しい姿と優雅な行動から世界中のどこでも人々に知られ、親しまれている。このツル類は、体が大いことなど関連して、採食や繁殖のために広大な湿原に好んですみつく。とくに繁殖期には、つがいごとに分かれて広大ななわばりを占める。また、春と秋にはしばしば長距離の渡りをし、途中のいくつかの湿原でつばさを休める。

ツル類は生活のために広大ないくつもの湿原を必要としているわけだが、ツル類の生活条件は、最近の湿原の環境破壊により、世界的な規模で年々悪化している。すなわち、繁殖地や越冬地は分断、縮小され、渡りの中継地は急速に失われている。その結果、いくつもの種は絶滅の危機にひんしている。しかし、ツル類の渡りの経路や繁殖地、中継地、越冬地などについての情報はわずしか得られておらず、保全を実際に進めるための科学的資料の蓄積は乏しい状況にある。

そうした中で、一九九一年、日本野鳥の会や山階鳥類研究所などが中心になって、ツル類の衛星追跡が開始された。これまでに、九州出水から北上するマナヅルとナベヅル、ロシア中部やモンゴルなどから南下するマナヅル、ナベヅル、アナハヅル、ロシア北部のイルクーツクから南下するソデグロツルなどが追跡されている。私は当初から、この研究

プロジェクトにかかわっている。ここでは、越冬地である鹿児島県の出水から北上するマナヅルの追跡例を紹介しよう。

鹿児島県の出水から飛びたったマナヅルは、九州の西海岸沿いや対馬を経て朝鮮半島に入ったのち、南北朝鮮を隔てる非武装地帯をめざして飛び、そこで一週間から一か月ほど滞在したのち、朝鮮民主主義共和国(北朝鮮)の東海岸あるいは西海岸沿いを北上する。東海岸を北上するツルは、北朝鮮、中国、ロシアの三国が接する地域を経て、中国とロシアの国境沿いへと進み、そこで一週間、つばさを休める。このツルたちはその後、中国黒龍江省の東北部、三江平原へと向かい、そこで繁殖する。

もう一方の北朝鮮の西海岸を經由するツルは、その後、北上を続けて中国黒龍江省の西部、礼龍(ザロン)へと向かう。ここはマナヅルやタンチョウの繁殖地としてよく知られたところだ。

この北上の渡り経路でとくに重要な中継地は、朝鮮半島の非武装地帯の板門店(はんもんてん)と鉄原(てつげん)、北朝鮮東海岸の金野(きんや)、ロシア・中国国境のハンカ湖周辺などである。越冬地から繁殖地までの渡りにかかる日数は、十七、四十一日ほど、総延長移動距離は、一八〇〇〜二六〇〇kmである。

人工衛星を利用した渡りの追跡調査は、現在のところ、ツル類、ハクチョウ類、タカ類、アホウドリ類などの大型・中型鳥類に限られている。しかし、送信機の大さが今後さらに小さくなれば、装着できる鳥の種類はもっと増えることになるだろう。そうなれば、これらの渡り鳥とその生息環境を保全することに、衛星追跡がさらに大きく貢献することになるにちがいない。

4. 渡り鳥がつなぐ世界の湿地

鳥の渡りというのは、壮大な自然のドラマである。鳥たちは、これまで見てきたように、湿地から湿地へと数百キロ、数千キロ、ある

いは一万キロ以上もの距離を渡る。毎年毎年、しかも春秋の二つの季節に、それだけの距離を移動するのである。しかも、それにかかわる鳥の数は、数千、数万、あるいは数十万、数百万にもぼる。鳥の渡りとはまさに、ばく大な数の集団の季節的な大移動なのである。

この渡りの過程で鳥たちは、生活の場と食物の供給源として、各渡来地で多くのものを得ている。が、一方で、渡来地の生態系の重要な構成員として、その食習性などを通じて、各地の生態系が健全に維持されるうえで重要な役割を果たしている。渡り鳥の存在がなければ、特定の生物種だけが急増したり、水辺の植生が荒れたり、水質が汚濁する可能性がある。

これらの影響はまだ具体的に明らかにされていないわけではない。だが、渡り鳥が渡来する各地の生態系は、これまでの進化の歴史を通じて、渡り鳥の存在があつてはじめてうまく機能するようになってきたはずである。したがって、一つの渡来地の破壊にとまらぬ渡り鳥の減少は、遠く離れた別の渡来地の生態系の破壊をもたらす可能性がある。たとえば、ロシアのツンドラ地帯の開発は、そこで繁殖し南方に渡るツル類やガンカモ類の減少を通じて、中国南部の湿地の生態系をかく乱する可能性がある。また、日本のガンカモ類の越冬地の破壊は、繁殖地であるロシアの湿地生態系の破壊をもたらすことになるかもしれない。

湿地や干潟などは、一つひとつが孤立しており、独立しているように見えるが、実際には渡り鳥によってつながっている。渡り鳥の保全は、単に対象となる鳥の保全にとどまらず、遠く離れたいくつもの生態系の保全を意味し、ひいては地球環境全体の保全にもつながっているのである。



『JAPANの文字を背負って』



幾田 雅明 (二十二期)

私は、昭和四十九年卒業(二十二期)現在東京消防庁で特別救助隊の隊長として勤務しています。タイトルに「JAPANの文字を背負って」とあり、この文章を読んでいる方は消防署に勤めていて、一体何だろうと思われているでしょう。

過去を振り返ると昭和六十二年「国際緊急援助隊の派遣に関する」法律が制定されるまで、日本は外国で大きな災害が発生すると被災国に対して災害補償と言う、資金援助を行っていました。しかし、幾つかの大きな災害に対し欧米諸国は、素早く救助専門チーム、医療チームなどの人的援助を行っていました。日本は金を出す人が出さないと国内外から批判を招いていました。その後、目に見える援助ということで昭和六十年にメキシコ地震、コロンビア火山噴火災害に派遣され、その経験から医療関係者の他に救助及び災害復旧の専門家を含む総合的な国際緊急援助隊の体制が叫ばれ、それから二年後の昭和六十二年九月「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が制定されました。

このようにして法律が整備され、国際緊急援助隊は人的援助、物的援助(緊急援助物資の供与)及び資金援助となり、人的援助は現在救助チーム、医療チーム、専門家チーム及び自衛隊の部隊に分かれており、私は救助チームのなか日本の消防機関の代表として国際緊急援助隊派遣委員として、平成十年から昨年九月二十一日まで二十四時間待機していました。

以上の理由で私は昨年九月二十一日台湾を襲った地震災害で、JAPANの文字を背に

仕事をすることになりました。

その仕事の内容は平成十一年九月二十一日台湾中部における地震災害に伴う救助活動のため慌ただしく、成田国際空港から台湾へ向け出発しました。私たちは地震が発生してからの国よりも早く救助活動することができました。私たちは消防組織の代表として東京消防庁、千葉市、新潟市、岡山市及び佐世保市の各消防本部から合計十五名、他に福岡県警及び京都府警から十五名、海上保安から四名スタッフとしてJICAから一名、計三十五名の各組織の混成部隊での活動となりました。

一日目は入国し休むこともなく、夜の八時から台湾中部の南投県中寮郷という街でコンクリート造りの四階建ての建物が立ち並ぶ街であったようですが、街は当然電灯など消えており自分のヘッドライトが頼りで、スリラー小説の中の街を思い起しました。

真っ暗闇でも大量の埃が舞っているなかで、目を良く凝らして建物を見ると殆どの建物が潰れていました。地元の人に案内され救助現場に行き、大きな余震が繰り返すなか翌日



の未明まで懸命の救出により四人を救出、翌日はそのまま一睡もしないで震源地に近い集集という街で一人を救出し、そのまま、大里へ移動、そこでも一昼夜救出活動となりました。その間にも大きな余震が度々あり緊張した活動が続きました。

さらに特筆すべきことは阪神・淡路大震災の時の教訓が台湾で生かされているということでした。まずボランティアの活動においては、援助物資の管理は確実に行われており援助物資の取り合いなどはなく、救助活動現場では必ず救助専門のボランティア団体が活動しており何箇所か一緒に活動したところ、彼らの技術は高く統制がとれた活動ができていたことを感じました。

今回の災害派遣において台湾の人達の温かい出迎え、そして活動に対する感謝を活動中の現場で「謝謝」「ありがとう」の言葉を掛けられたことでした。さらに台湾の国際空港を出発する際、誰からもなく私たちの「JAPANのユニフォームを見て拍手」「謝謝」「ありがとう」の言葉、そして握手を隊員に求めてこられ、台湾の方々の温かい手に触れ本当にこの国に来て活動したことが無駄では無かったと感じた時でした。

以上台湾で活動を通して感じたことを述べさせていただきます。紙面の都合で経験した全てではありませんが、金高OBの中にこのようなことをしている人間、そしてこのような仕事もあるということに判っていただければ幸いです。



ハワイアンダンス カノエラニフラハラウ
(15期 田川正子)

大倉山スタジオ	(月)	PM 4:00~ 5:30
	(木)	AM 10:00~11:30
三ツ境カルチャー	(月)	【練習】PM 12:30~1:45
	(金)	PM 1:00~2:15
	(土)	PM 1:00~ 2:15

TEL&FAX 045-388-7329

JOI
美容室JOI

館見台通り4-13 セントラルビル
TEL.783-1511
(電話火・本館開館)

美容一般・ベルジュパンス
M7ハビット・青毛のためのスキャルブヘアエステ
などのクリニックシステム

ご予約のお電話お待ちしております。

鈴木節子 (代表)

卒業生のお店紹介

司法書士 逸見浩輔事務所

逸見 浩輔さん(三十三期卒)

私が金高を卒業して早、十三年となります。昨年、かねてからの希望であった司法書士事務所を横須賀中央で開設しました。

業務内容は不動産・商業・法人登記手続・供託手続、裁判書類の作成等です。不動産登記手続は不動産購入や相続発生時における土地・建物の名義書換、金融機関における担保設定・解除の手続です。相続登記手続などは放っておくと次の相続が起こった際に相続関係が複雑化してしまいます。私は、お客様が落ち着かれた時期に早めの手続をお奨めしています。商業登記手続は会社経営者の方や税務関係でお仕事をなさっている方に馴染みのあることと思います。

司法書士はこれらの登記手続を行うことにより皆様の「物(不動産)に関する権利」の確保、会社・法人の現状を、登記簿を通じて公示することに寄与します。このようなことで皆様の生活上、フツと疑問に思うようなこととはないでしょうか。私は登記手続の事務に關しては、これまでの実務経験でお客様の御要望に十分お答えできるものと自負しています。ご相談だけでも結構です。どうぞ気軽に声をかけて下さい。

電話 〇四六八(二八)三〇二五
FAX 〇四六八(二八)三〇二六

住所 横須賀市日の出町一六
イケダビル3階

『そば処「葉隠」』

吉川 義重さん(十五期卒)

店主の吉川さんは本校バスケット部のOBの方です。

現役時代は学校を休んでも部の練習には参加したこともあるとか。現在もOB会で積極的に活動しているそうです。

お店は「脱サラ」で開業して二十五年余り。同じ金沢区並木に「並木店」があります。こちらは、十八期卒、弟の守さんが経営しています。

「寒い季節も終り、心キラキラの陽気になりました。おそばのおいしい時期です。当店のおそばはコシの強い風味豊かなそば粉を使用し、自家製麺しています。是非一度ご賞味ください。また、店内は木のぬくもりを大切にしたいテーブルと椅子で皆様のご来店をお待ちしております。」とのことでした。

営業時間 午前十一時～午後七時三〇分
電話 (七七一)四一七三
住所 金沢区富岡東五二〇一三
京急富岡駅東口下車すぐ



おおきな木のそばの そばや

水車

16期 高野研一

TEL 045(782)6410
住所 横浜市金沢区釜利谷東4-7-19
営業時間 午前11時～午後3時
定休日 水・木 連休

リフレッシュ整体 水[すい]

櫻井康夫 (10期)

施術時間 12:00～22:00 定休日 火曜・水曜
施術料 (電気機器併用)
20分---1,000円
40分---2,000円
60分---3,000円

〒235-0033 横浜市磯子区杉田2-1-4
京急杉田駅西口徒歩1分(ぼん吉2F)

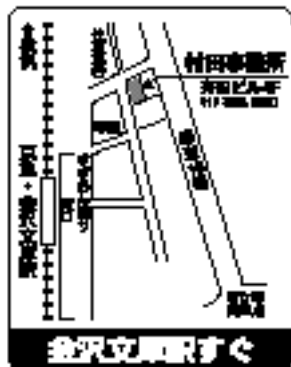
TEL.045-775-4530
FAX.045-775-4530

村田美弥子 司法書士事務所

(旧姓 田村 金高21期生)

- 不動産
- 商業登記
- 訴訟
- 供託手続等

〒238-0016
横浜市金沢区谷津町338
齊田ビル4F-C
TEL.045-701-8511
FAX.045-701-8522



てぶか耳鼻咽喉科

院長 手塚 太一 (金高22期生)

【受付時間】 平日 AM9:00～12:30 PM3:00～6:30
土曜 AM9:00～12:30 PM2:30～5:00
【休診日】 木曜・日曜・祭日

専用駐車場あり

〒238-0042 金沢区釜利谷東7-1-6
TEL.045-783-8780
FAX.045-783-8709

金沢高校創立50周年記念事業のお知らせ

平成13年（2001年）、我が金沢高校は「創立50周年」を迎えます。半世紀の歴史を振り返り、学校を中心に様々なイベントを企画しております。

まず、30周年、40周年では学校内で「式典」や「記念行事」が実施されましたが、この度の「50周年」は一つの区切りとして、横浜の中心でもある「みなとみらい地区」にて「式典」と「祝賀会」を企画しております。

なかでも、学校サイドでは教職員による「準備委員会」を発足して着々と準備を進めております。特に式典での「演奏会」は「ベートーベンの交響曲第九番の合唱」を計画していますので大変楽しみです。

一方、我が同窓会としても、企画委員会を発足して、別窓の通り体制作り（記念事業実行委員会）に着手しました。今後は各部門における実行委員の募集と記念事業開催における寄付のお願いをさせていただきますので、なにとぞ趣旨、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（募金趣意書は別封させていただきます。）

B

創立50周年記念事業

・記念式典および記念演奏会

開催日 平成13年12月8日（土）午後（詳細未定）

場 所 よこはま「みなとみらい大ホール」（桜木町駅）

・祝賀会 上野演習会終了後、近隣の宴会場で実施（場所未定）

・ホームページの開設

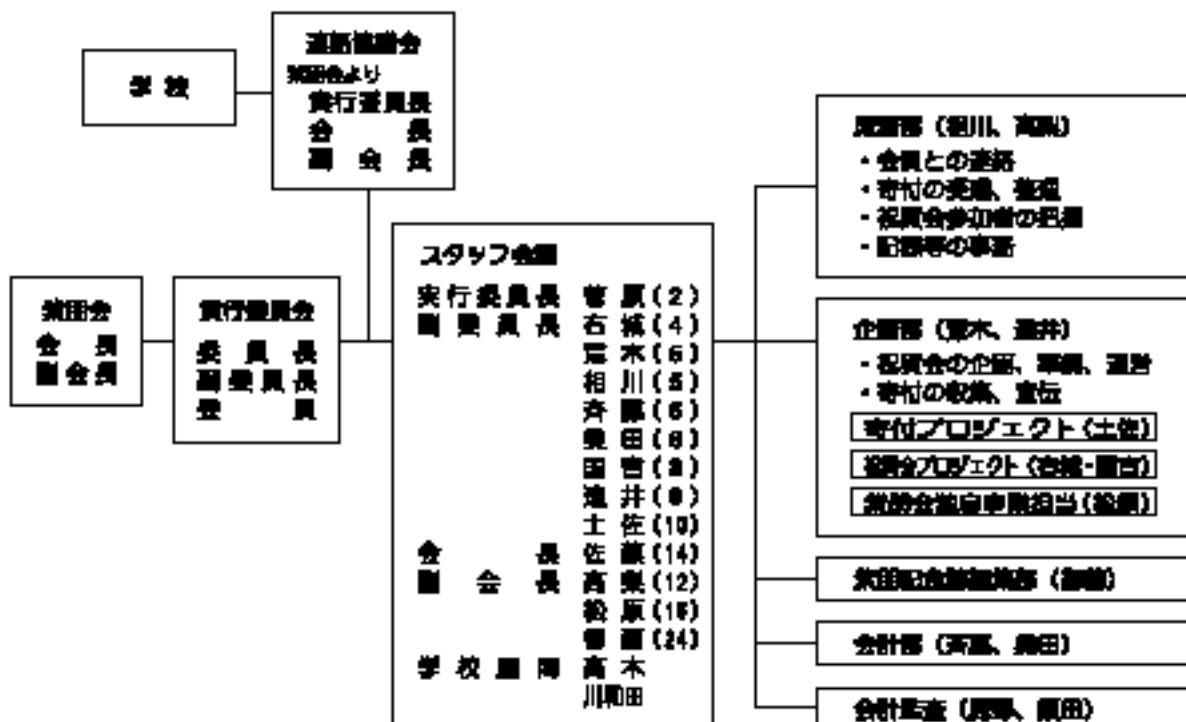
・記念イベント（後援事業）：金沢同窓会（金沢高校同窓部研究部OB会主催）

開催日 平成13年秋を予定

場 所 金沢高校近辺を予定

出演予定者 柳家 小菊ん（10期卒4組 柳8組 柳 理） 三笑亭 夢丸（12期卒3組 小川組 坂田 宏）
古き亭 菊蘭（10期卒6組 嵐 義 曾川勝一） 他 名優正（真打）のお弟子さん若干名

< 紫明会50周年記念事業実行委員会 組織と担当任務 >



寄付のお礼とお願い

紫朋会の運営は毎年卒業を迎える卒業生からの会費、会報「紫朋」誌の広告ならびに会員からの寄付金を基盤として...

会報「紫朋」の郵送料だけで一三〇万円もかかるため、会員の皆さんに寄付をお願いしてきました。...

平成十一年度ご寄付いただいた方々(敬称略)

- 2期 林田光輝、田中和男、山田義雄、大野伸子、三富みな子、荒木康夫、森明子、今関孝子、諏訪邦好、三枝幸雄、石井フジ子、猿渡常雄、小出正

- 3期 金井清子、松本良子、堺 勇、平木雄子、石橋貴美子、今村秀一、間辺精治、飯田澄子、

- 4期 棚橋須美子、松枝滋雄、鹿野融雅、大河将敬、百溪浩、山口勝巳、長塚ミツル、金子陽一、稲垣俊治、木村森子、森正義、内海京、林美智子、荒木泰三、高橋和子、中村一雄、湯島稔、末宗千枝子、木村玉枝

- 5期 土岐道子、松永一成、藤田重信、相川勲、左右田宗夫、大塚恵司、橋本博幸、二宮やす子、佐藤博之、田中耕多、渡辺和子、田野井俊一、岡本茂、菅野由利子、齋藤正通、豊谷弘、田所三代子、水野直春、小澤好枝、吉澤紳、川瀬隆子、丸山敏夫、奥田美佐子、本間みつほ、三浦正雄、松井紀子、齋藤マツ子、山村牙子、保坂禎子、皆川達昭、堀田幸子、須釜幸子、田宮健三、富樫美代子、柳本孝子、武居三郎、木村裕一、更科太一、望月栄子、下里宣枝、根本邦子、関敬昌

- 6期 川原とし江、塚田エイ子、小川恵美子、田村洋一、吉岡和子、菊田忠博、谷村千恵子、松井美智子、山崎宏、田中春子、奈良敏子、小関道夫、伊藤壽枝子

- 7期 大河原靖子、林亜也子、小幡正雄、上野紘子、鈴木弘、中山百代、宮内富子、田野井宣子、和田政子、中西淑子、花方威之、藤井貴明、高橋吉剛、青木政和、亀岡健一、香山幸江、落合瑞代、近藤紀行、太田恵美子、朝木富久子、湯川清、本間由紀子、畑口よう子、伊集院輝雄、山本典子、土佐弘之、大須賀正治

- 8期 神谷圭子、岡田紀子、篠原良子、小幡あけみ、米沢光規、市川章江、千葉常子、井川征雄、川添一弘、佐田和江、矢田融海、高橋雅、石田京子、明石稔、望月光枝、中村敬夫、山本恒和、渡辺みずす、溝田隆之

- 9期 佐々木千恵子、梅原マチ子、高木貴代美、西山千恵子、矢島洋子、名波ちよ子、山本幸子、細川洋一、金谷裕紀子、遠藤和孝、炉山克己、中里慎司、藤井明夫、青木克次、長野和雄、中村美代子、酒匂雅隆、新国登、金子英美子、菊地和生、足立昇、矢内直、佐藤邦彦、佐野圭水、野田フジ子

- 10期 平井悦子、齋木一久、有坂由美子、齊木和夫、岡本文夫、田川正子、石渡和子、五十嵐恵美子

- 11期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 12期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 13期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 14期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 15期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 16期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 17期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 18期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 19期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 20期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 21期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 22期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 23期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 24期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 25期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 26期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 27期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 28期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 29期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 30期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 31期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 32期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 33期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 34期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 35期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 36期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 37期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 38期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 39期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 40期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 41期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 42期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 43期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 44期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 45期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

- 46期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人

- 47期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一

- 48期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑

平成11年度寄付金状況

Table with 4 columns: 申請期, 合計金額, 申請期, 合計金額. Rows 2-28, Total 28.

- 16期 高野研市、塚本定夫、石井潤子、加藤正彰、岡田和子、佐藤愛子、田端勇治、関文夫、水野岳美、稲葉孝子、宮木恒夫、内藤定信、熊谷幸子、坂内恒雄、佐藤満、大関しおり、山田徳治、中村由明、橋本賢治、村山明美、18期 平山則子、山口英雄、島崎陽子、遠藤譲一、松山順一、石井守、石田郁夫、大竹好美、20期 大石康臣、大毛道子、佐藤峰行、長谷川実、21期 末永栄、22期 伊藤美枝子、渡辺宏子、千葉昌子、新井司郎、大友喜美代、永島律子、三橋徳子、23期 長谷川隆、小山豊、24期 小島栄美子、三浦澄明、横尾英男、堀口みち子、中村千鈴、柳澤浩子、田林正夫、井上陽子、金沢真司、芹沢みちる、三橋涉、大久保雪代、田口周一、25期 坂下ふみ、新井節代、畠山芳子、庄ちえ、井口ますみ、志賀久美子、大島裕子、野村圭子、26期 福田聡子、岸本文恵、八木弘美、白見元恵、小菅民江、27期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一、28期 大津洋一、大黒直子、御喜家聡子、中島靖雄、29期 黒田剛、小久保和子、楠田康之、田中緑、30期 阿部敬子、田村敬子、内田節子、山崎勝代、田中豊、中川尚美、菱川京子、久保田薫、山崎高士、村井武、村石恵子、柴田和人、31期 菅谷明子、北見信之、牧村浩代、村松智津子、北沼浩治、浅川均、佐々木浩恵、花博一、32期 加藤清美、大河原聖巳、石倉恵介、杉本公重、岡部千晶、33期 杉本勇治、南寛美、森田徹、柿沼裕之、金子豊、工藤美樹、34期 毛木由美子、山田和子、広沢邦子、富澤則之、石森浩行、末永由美子、古川美奈子、西嶋正治、瀧北智、35期 五十嵐正喜、樋口智子、天野智司、36期 高橋恭子、立川直人、藪謙一、平野淳、小牧真理、藤江康弘、37期 立石力也、大塚茂久、加藤律子、浜坂大明、山下英児、樋口真、38期 川村朝美、木曾真吾、室井慎一、丸山孝、箭内雄一、常森祐子、39期 土生千賀子、武田路子、40期 松崎伸、田中司、有村宏一、西すずか、41期 大熊恵美子、角井智行、早坂善児、42期 戸田宏子、高橋淳一、石渡貴久、田崎秀之、43期 中澤芳幸、山田健太郎、佐藤涼子、44期 藤村仁子、星野裕介、鼻孝行、45期 岩瀬謙一、46期 吉田拓也、小平理恵、松岡輝樹、鈴木莊一、石井義頼、深沢豊、47期 阿部善一、武原愛奈、安部園子、重富良次、竹山俊輔、藤川彰、阿部恭子、旧職員 安楽俊子、唐鎌忠孝、桂川暢之、古賀貞憲、加瀬進、高見澤隆

同期会クラス会便り

二期同期会

平成十一年十一月十四日(日)二期会の同窓会が横浜駅西口 横浜ベイシエラトンホテルに於いて十二時半より十五時半迄三時間、遠路栃木県より三名の参加者を含み、金沢高校創成期の アダム&イブ 達が総勢六十四名集い、大いに飲み食べ語り、時には四十八年前の紅顔の美少年、汚れなき乙女?にタイムスリップして旧交を温め、あつと云う間の時間の経過に名残りおしみつつ次回の再会を約して終了しました。二次会は十六時より同ホテルのカラオケルーム一室(二〇人用)に三十八人も集まり、年令を感じさせないパワーと熱気で大いに盛り上がり十八時に散会しました。次回の幹事は次の四氏にお願いしました。



荒木康夫 今井(井実)孝子
岸 正一 松尾(池田)葉子
幹事 伊沢義幸 馬場(谷戸)美恵子
岡田啓二郎 福沢(中田)千代

三期同期会

平成十一年、風薫る五月一日の夕刻、横浜ベイシエラトンホテル「清流」の間に、池田、田口、戸田、黒宮、中村、清田、望月の諸



先生ご臨席のもと、八年ぶりの集いでした。遠く沖繩から参加した旧姓波平さんを始めかつては紅顔可憐(今や厚顔加年?)の面々約七〇名が集い、乾杯のあと、先生方のスピーチに続き、西谷先生のメッセージが披露される頃には、会場の雰囲気もすっかり和み、グラス片手に、あちこちに談笑の輪が生れ、その輪から笑い声の渦がまき起り、一段トーンを上げないと、話を通じないほどでした。時がたつにつれ、はるかな記憶がよみがえり、話の糸は、次から次へと太まり、いつの間にかすっかり若いいだ気持になつていたようでした。

最後に学生歌、応援歌を合唱し、次会を楽しみに、気分だけ高校生のおじん、おばんは家路に、二次会に向いました。



十一期二組 同窓会

鳥生真澄(旧姓 石川)
平成十一年十月二日、さわやかな秋の日、私達十一期二組のメンバーは、懐かしい母校の門に集合、参加数は少なかったが、Kanako Saijo」と大きくアート風にデザインされたアーチをくぐり校舎の中へ入った。

今回の会は二部構成とし、第一部は金高祭を見学し、三〇数年前の我が青春を今一度との趣向で計画してみた。歳はすっかりおばさんになったが、気持ちはいつも青春よ!とばかりに思い出の校舎、校庭をキョロキョロと見て回る。「体育館、図書館、食堂、格技館みんななかった、今の子はいいね。」等ブツブツ言いながら体育館の中へ入る。中では元氣はつら

つ、ピチピチガールのバトントワリング部が華麗な演技をしていた。彼女等の若さが眩しく映る。軽音楽部や有志ロックの凄まじい音楽には残念ながらついてゆけず早々に退室する。

その昔、金高生といえばもの静かで大人しいというイメージであったが、現代の子の彼等はエネルギーで自分達の手で作った祭りを、大いに楽しんでいるようであった。紫朋会ルームでは、クッキーとお茶をいただき、卒業アルバムをめくり一時昔の乙女に返る。

若さのエキスを少し貰い、第二部の会場である鉄板焼レストランへと向かう。十八階からの東京湾の眺めは素晴らしく、大型船がゆつくり行き交う海を見ながら三年振りの会食が始まった。

見慣れた顔が多いが、初めて遠方から駆け付けた友もあり話が弾む。近況報告、子供や孫(何人かには孫が居る)のこと、そして嫁や姑、親の介護のこと、また趣味や仕事のこと等々次から次へと話が尽きない。出席できなかった人からの便りも沢山届き、友の顔が浮かぶ。

いつしか東京湾も夕暮れて、八景島の灯がチラチラと輝き出したが、美味しいごちそうと楽しいおしゃべりまで誰も腰を上げない。そんな時、突然一人の友がランドピアノに向かい「ラ・クンパルシター」と「枯葉」を軽快にムードたっぷり弾き出した。夜の海を見ながらタンゴのリズムとシャンソンに暫しつと。



次回は二年後、「山梨県一宮の桃の花の下で会いましょう。」と約束して別れた。
See you again.

十六期同期会

幹事 川辺 隆



同窓の仲間が共に五〇歳の声を聞いたのをきっかけに、卒業後三十二年目にして初めての同期会を開催しました。各クラスから二、三人の幹事をお願いし、住所の洗い出しから始め、どうか四五〇名ほどの所在が判明しました。平成十一年十一月十三日五時半、新横浜プリンスホテルの五階シンフォニアには一四七名の仲間プラス七名の恩師の懐かしい顔、顔!古今亭菊龍さんの司会で会は楽しく運ばれ、いつの間にか初めの堅い表情はどこへやら。学生服の高校生に戻り、話は尽きず、瞬間に時間は過ぎてしまいました。「また会いましょう。」の声を残して三々五々二次会へ。どのグループも長い夜になつたようです。先生方、遅くまでおつきあいいただき、本当にありがとうございました。また幹事の皆さん、最後までご苦労さまでした。最後になりましたが、名簿を作成した折り八名の同期生が他界されたことが確認されましたので、ご報告するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



平成十二年度事業計画

総会

「紫朋」発行
常任幹事会

新幹事歓迎会

ハイキングの会
舟釣りの会

金高祭への参加

リース教室

同期会・クラス会への補助

*各行事の案内、参加申込みは、各担当者まで一報ください。

常任幹事会

第一回 四月八日(土)

第二回 九月十日(日)

第三回 一月二十七日(土)

各回 14:00~16:00

新幹事歓迎会

四月八日(土) 18:00

総会

五月二十八日(日) 一ページ案内参照

ハイキングの会

第十一回 ハイキング

行先 西丹沢 大野山

日時 六月十日(土)

集合 東海道線「大船」駅

下りホーム 7時45分集合

又は御殿場線山北駅前9時

コース 大船(7時55分発)

国府津 山北(9時2分着)

大野山 谷峨駅

大船(16時30分頃)

費用 交通費 約二、〇〇〇円

第十二回 ハイキング

行先 奥多摩 高水三水

日時 十一月十九日(日)

集合 南部線「川崎」駅

下りホーム 7時30分集合

又は青梅線車畑駅前9時50分

コース 川崎駅(7時47分発)

立川 軍畑(9時47分着)

高水山 岩茸石山

惣岳山 御嶽駅 立川

川崎(18時頃)

費用 交通費 川崎より一、八〇〇円

横浜より二、四二〇円

参加希望の方には事前に詳しい計画書を送ります。天候による変更もありますので事前に申し込んで下さい。

葉書又はFAXに卒業期・氏名・〒住所・TEL・十一回十二回の別を明記の上左記宛お願いいたします。五月二十八日の総会でも受け付けます。

(申込先) 〒二三六-〇〇一六

横浜市金沢区谷津町二七八

相川 勲(五期)

電話 〇四五(七八一)三七〇三

FAX 〇四五(七八一)三七〇三

金高祭

九月三十日(土)・十月一日(日)

舟釣りの会

十月十四日(土) 7:00

高梨 修(十二期)

電話(七八一)一九二四

リース教室

十二月九日(土) 10:00~12:00

御園 昌人(二十四期)

電話 〇四六八(七五)四〇八一

社交ダンスをやってみませんか

最近特に中高年の人達の間で社交ダンスがブームになっているといわれています。かつて紫朋会でも毎年ダンスパーティーを開き、長期の講習会を開催したこともありましたが、金高五〇周年を記念して、紫朋会ではダンスパーティーの開催も考えております。

パーティーに楽しく会員の方が大勢参加していただくため、紫朋会主催のダンス講習会を実施します。気の置けない紫朋会員同士、楽しいムードでダンスにチャレンジしてみませんか。

開催の詳細は未定ですが、参加希望者の意向を聞いて、例えば、土日曜昼間コース、平日夜間コースなど、月三回程度六か月間位の予定ですすめたいと考えています。

参加希望のかたは、同封のハガキの参加希望欄にの上、ご返送ください。折返しご連絡いたします。(会員以外の方の同伴も結構です。若い方もぜひご参加下さい。)

幹事 菅原(二期) 〇四六七(五八)四五四〇

飯田(三期) 〇四五七七(三)五八四四

新幹事の紹介

今年度、四十八期生として新たに紫朋会の幹事となられた方々をご紹介します。

1組	佐藤 功典	小林かおり
2組	伊藤 朝子	重松ひふみ
3組	露木 隆夫	畑 紀英
4組	高橋 典子	荒生 絵理
5組	木内 謙一	山内 陽子
6組	原 ひとみ	辻 健一
7組	前田 俊哉	高野 麗子
8組	藤井 香織	塩川 満治
9組	稲葉 信芳	加藤 辰彦

(敬称略)

Machintosh Art Work Office
ポスター/カタログ/パンフレット/チラシ広告/印刷物全般/企画・制作
E-mail: machos@peach.on.tn.jp

TIC
TIC Japanese Office

株式会社 ティ・アイ・シー
〒144-0202 東京都大田区綱島2-2-17 Tel:03-6711-1022 Fax:03-6711-1077

お写真の制作命は

八景写真館

電話 045-731-0844
〒104-0022
東京都中央区新富町10-9

紫朋会 平成11年度決算報告

自 平成11年4月21日 至 平成12年3月31日

収入の部			
科 目	予 算	決 算	決算 - 予算
前年度繰越金	393,191	393,191	0
入会金	2,500,000	2,557,500	57,500
総会会費	100,000	28,000	72,000
銀行預金利子他(郵便利子)	1,000	947	53
寄付金	2,000,000	1,188,060	811,940
雑収入	80,000	19,440	60,560
収入合計	5,074,191	4,187,138	887,053

支出の部			
科 目	予 算	決 算	決算 - 予算
総会費	200,000	136,098	63,902
常任幹事会費	100,000	81,070	18,930
紫朋発行費	1,400,000	1,258,172	141,828
同窓会・部活動補助費	200,000	145,000	55,000
金高祭費	200,000	218,025	18,025
事務局活動費	400,000	280,917	119,083
郵送費	1,200,000	1,139,245	60,755
50周年記念事業積立金	500,000	0	500,000
金高生奨学金	240,000	120,000	120,000
在校生補助費	200,000	50,000	150,000
金高図書費補助	200,000	200,000	0
卒業生記念品費	70,000	57,550	12,450
予備費	164,191	0	164,191
支出合計	5,074,191	3,686,077	1,388,114
残高合計	(収入合計 - 支出合計) ￥501,061		

口座残高内訳 ()

東京三菱銀行	0
横浜銀行	441,384
現金	59,677
合計	501,061

他に、50周年記念事業積立金として
郵便局定額預金 [5,000,000]

紫朋会 平成12年度予算案

自 平成12年4月1日 至 平成13年3月31日

収入の部			
科 目	予 算	前年度予算	今年 - 前年
前年度繰越金	501,061	393,191	107,871
入会金	2,400,000	2,500,000	100,000
総会会費	100,000	100,000	0
銀行預金利子	1,000	1,000	0
寄付金	2,000,000	2,000,000	0
雑収入	80,000	80,000	0
収入合計	5,082,061	5,074,191	7,870

支出の部			
科 目	予 算	前年度予算	今年 - 前年
総会費	200,000	200,000	0
常任幹事会費	100,000	100,000	0
紫朋発行費	1,400,000	1,400,000	0
同窓会・部活動補助費	200,000	200,000	0
金高祭費	200,000	200,000	0
事務局活動費	400,000	400,000	0
郵送費	1,200,000	1,200,000	0
50周年記念事業積立金	500,000	500,000	0
金高生奨学金	240,000	240,000	0
在校生補助費	200,000	200,000	0
金高図書費補助	200,000	200,000	0
卒業生記念品費	70,000	70,000	0
予備費	172,061	164,191	7,870
支出合計	5,082,061	5,074,191	7,870

50周年記念事業積立金	5,500,000
-------------	-----------

編集後記

この「紫朋」四十五号より、年度中にご寄付いただいた方々のお名前を、紙面に掲載することとなりました。久々の復活ということになります。会の発展を考えると、この紙面がページ数を増やしていくことを願っております。

今回、紙面の都合で、「会員からのメッセージ」はお休みとなりました。多数のお便りを寄せていただきましたが、次号以降に掲載させていただきます。どうぞご了承くださいませ。

お気づきのことと思いますが、平成十二年度行事予定表を「ポケットカレンダー」にしました。常任幹事会での発案によるものですが、より多くの会員の皆様に行事に参加していただければという願いから出されたものです。どうぞふるってご参加ください。また、「こんなことを行事として実施してほしい」というご意見がございましたら是非お願いいたします。前向きに検討させていただきます。

まだ先のことと想っていた五〇周年。気がつけば、いよいよ来年度に迫っております。これを機に、会のさらなる飛躍を願ってやまない次第ですが、それにしても、「紫朋」の編集員の人数が…。四十四号でも募集しましたが、立候補者はなく、それでも原稿の締め切りは容赦なくやって来るし、どなたか我々をお救いください。

「紫朋」編集委員会一同

